「県立高等学校の今後の在り方」についての地方別懇談会
【紀南エリア［西牟婁地域］会場】概要

（令和２年10月８日(木) 18:30～20:03　紀南文化会館　小ホール）

１　挨拶　　和歌山県教育委員会　教育長　　宮﨑　　泉

２　説明　　和歌山県教育委員会　教育企画監　　清水　博行

３　質疑

［質疑においていただいたご意見やご質問］

〇今後の進め方について

・柔軟な姿勢で意見を聞いてほしい。
・現状の枠組みで考えても結論は出にくい。国内外の先進地から学ぶことがあると思う。
・高校における特別支援教育は、再編に関係なく充実させてほしい。
・単に少子化への対応ということではなく、攻めの形でやってくれており、好感を持っている。
・教育委員会は、学校を守る、子供たちを守るという気概をもって、頑張ってほしい。

〇教育の内容、学校の状況について

・それぞれに事情や状況の異なる生徒に応じた教育システムがほしい。
・高等特別支援学校はどのようなものか。就労も大切だが、就労後のケアも視野に入れてほしい。
・学級規模と多様性の担保のためには、教員の増員とセットで考えるべきである。
・ＩＣＴの活用により、教員が減らされてしまわないか心配である。
・１学年６学級に法的根拠はあるのか。
・３０人学級のような少人数のアプローチで進めると、教育の効率がよくなると思うがいかがか。
・農業試験場等と連携して、農業のスペシャリストを育成する考えはあるか。

〇地域の状況等について

・今回、地域の学校がなくなると困るという思いで参加したが、話は単純でないことが分かった。
・看護科について記載が少ないように思うが、どう考えているか。
・商業科は閉科もありうると書いてあるが、当地方においてはどうか。
・地域の支援学校高等部が過大規模化している。

［質疑における県教育委員会の回答及び見解］

多くの方々にご参加いただき、多数のご意見を賜りました。ありがとうございます。

これまでの高校の在り方については、いくつかの課題も指摘されておりました。今後の高校再編により、目的をもって学ぶこと、各校の成果やもっている強みを生かすことなどを積極的に考えていきたいと思います。特に、農業については、重みのある答申となっていることを踏まえ、今後、更なる専門性の向上等を進めてまいります。また、高校生活が途中でうまくいかなくなった生徒のチャレンジを支えられるような仕組みも考えていきたいと思います。

今回、各地方の懇談会において、個に応じた教育への関心が非常に高いことを肌で感じています。特別支援学校のこれまでの取組を踏まえ、小中学校や各地の教育委員会とも相談を重ね、それぞれの子供にとって一番よい教育を、できるところから行っていきたいと考えています。

１学年６学級については、県立学校長のヒアリングでも、現実的で望ましい学級数だという意見をもらっています。30人学級については、良い方法だと思っていますが、優秀な人材の確保と財政措置が必要となるため、難しい面があります。諮問の時期には４０人学級を前提としておりましたが、国の動向なども見ながら柔軟に対応していきたいと思います。

質の高い教育を行うためには、教員に高い専門性や能力が必要であるため、現在、教員の指導力等の向上に特に取り組んでいるところです。好事例も参考にしながら、和歌山県の教育が、生徒の夢や希望を育てられるよう、引き続き取り組んでまいります。